

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月18日

協議会名: 鹿部町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 令和4年度地域内フィーダー系統
確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
函館バス株式会社	運行系統名:鹿部駅線 運行区間:鹿部出張所～宮浜～ 鹿部駅前 運行回数:1,949回 運賃:527.927円 【公有民営方式車両購入費国庫 補助】	利用者会議や関係者から意見聴 取し、ニーズに即した運行計画の 見直しを実施した。	B 事業が計画に位置付けられ たとおりに実施されていない 点があった。バスの乗り方教 室を実施できなかった。	C 目標とした日利用者数28人/日に 対し、27.5人/日と達成できなかつ た。 バスの乗り方教室については、新 型コロナウイルス感染症拡大の影 響もあり実施できなかった。幼稚園 児の体験乗車は実施した。	利用者の意見と事業者の意見を すり合わせた運行計画の見直し を実施する。 バスの乗り方教室を実施する。
鹿部町	運行系統名:鹿部リゾート・出来 洞地区線 運行区間:鹿部駅～ロイヤルシ ティ鹿部リゾート内、出来洞地区 内～鹿部駅 運行回数:39回 運賃:5,050円	利用者会議や関係者の意見聴取 や実証運行を経て路線バスが運 行していない、又はバス停から遠 距離の交通空白地域に対し、路 線バス乗継地点までを接続する デマンドバスを運行開始	B 交通空白地の移動手段を確 保できたが、利用者が少ない。	C 目標とした日利用者数6人/日 に対し、0.8人/日と達成できな かった。	利用者の意見と事業者の意見を すり合わせた運行計画の見直し を実施する。 利用者説明回を実施する。
鹿部町	運行系統名:大岩・鹿部地区線 運行区間:鹿部町役場～鹿部町 字大岩、鹿部町字鹿部(3区A・B 町内会)～鹿部町役場 運行回数:37回 運賃:3,700円	利用者会議や関係者の意見聴取 や実証運行を経て路線バスが運 行していない、又はバス停から遠 距離の交通空白地域に対し、路 線バス乗継地点までを接続する デマンドバスを運行開始	B 交通空白地の移動手段を確 保できたが、利用者が少ない。	C 目標とした日利用者数2人/日 に対し、0.4人/日と達成できな かった。	利用者の意見と事業者の意見を すり合わせた運行計画の見直し を実施する。 利用者説明回を実施する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月18日

協議会名：	鹿部町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>鹿部町は、北海道南部の渡島半島東部に位置し、駒ヶ岳山麓の一角に広がる噴火湾に面した1年を通じて温暖な町で、総面積は110.63km、人口は令和5年1月現在で 人となっている。</p> <p>近年では、町内におけるバス利用の低迷や少子高齢化、人口減少の進行等、状況は変化しているほか、令和3年度には鹿部町役場が移転をし、町民の移動状況にも影響が出ている。これらの状況に対応し、町民をはじめとする町内公共交通利用者のよりよい交通サービスの提供を行うことを目的に、町内移動・広域移動に係る生活交通の確保を行うこと、併せて広域交通と町内交通間の利便制向上策の実施による観光客需要の取り込みも視野に入れた「鹿部町地域公共交通網形成計画」を策定している。この計画に基づき、令和3年5月から「鹿部駅線」を再編し、利用者の意見を取り入れながら、運行内容の見直しを実施している。また、令和4年5月から、路線バスが運行しない又はバス停留所から遠方の交通空白地域の移動手段として、デマンドバスの運行を開始している。「鹿部駅線」及び「デマンドバス」はJRに接続する他、町内の生活移動の手段となり、地域公共交通確保維持事業により将来に渡り安定して確保・維持することが必要である。</p>

鹿部町地域公共交通協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

町内公共交通利用者のよりよい交通サービスの提供を行うことを目的に、町内移動・広域移動に係る生活交通の確保、観光客需要の取り込みも視野に入れた、「鹿部町地域公共交通網形成計画」を策定した。この計画に基づき、令和3年5月から「鹿部駅線」を再編、令和4年5月からは、交通空白地域の移動手段を確保する「デマンドバス」を運行し、利用者の意見を取り入れながら、運行内容の見直しを実施している。「鹿部駅線」及び「デマンドバス」はJRに接続する他、町内の生活移動の手段となり、地域公共交通確保維持事業により将来に渡り安定して確保・維持することが必要である。

生活交通確保維持改善計画の目標

鹿部駅線の日利用者数を1日平均28人以上とする。
デマンドバス鹿部リゾート・出来澗地区線の日利用者数を6人とする。
デマンドバス大岩・鹿部地区千の日利用者数を2人とする。
小型ノンステップバスの導入により、高齢者をはじめとした足腰の弱い方も利用しやすい公共交通となり、鹿部駅線を利用した町内移動のほか、JRへ乗り継いで函館市・森町方面への広域移動も確保される。また、きめ細やかなルートになることで、観光客の町内周遊手段にも活用が見込まれ、地域活性化につながる。

令和4年度事業概要

路線バス運行系統名：鹿部駅線、 運行区間：鹿部出張所～宮浜～鹿部駅前
運行回数：1,949回 運賃：527, 927円

【公有民営方式車両購入費国庫補助】

デマンドバス運行系統名：鹿部リゾート・出来澗地区線、運行区間：鹿部駅～ロイヤルシティ～鹿部駅
運行回数：39回 運賃：5,050円

デマンドバス運行系統名：大岩・鹿部地区線、運行区間：鹿部町役場～鹿部町大岩～鹿部町役場
運行回数：37回 運賃：3,700円

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(鹿部駅)
- ・函館バス(株)(町内4路線6系統)
- ・デマンドバス(町内2路線)
- ・タクシー(1社)

協議会開催状況

- 令和3年10月28日 令和3年度第2回協議会を開催
・鹿部駅線の一部変更及びタクシー営業区域外旅客運送について承認
- 令和4年1月19日 令和3年度第3回協議会を開催
・事業評価及び鹿部駅線運行内容の一部変更について承認(書面開催)
- 令和4年3月24日 令和3年度第4回協議会を開催
・デマンド交通及び鹿部駅線運行内容の一部変更について承認
- 令和4年5月30日 令和4年度第1回協議会を開催
・令和5年度鹿部町地域内フィーダー系統確保維持計画について承認
- 令和4年11月15日 令和4年度第2回協議会を開催
・デマンドバス運行内容の一部変更について承認(書面開催)
- 令和5年1月18日 令和4年度第3回協議会を開催
・鹿部駅線の運行内容変更、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について承認

令和4年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

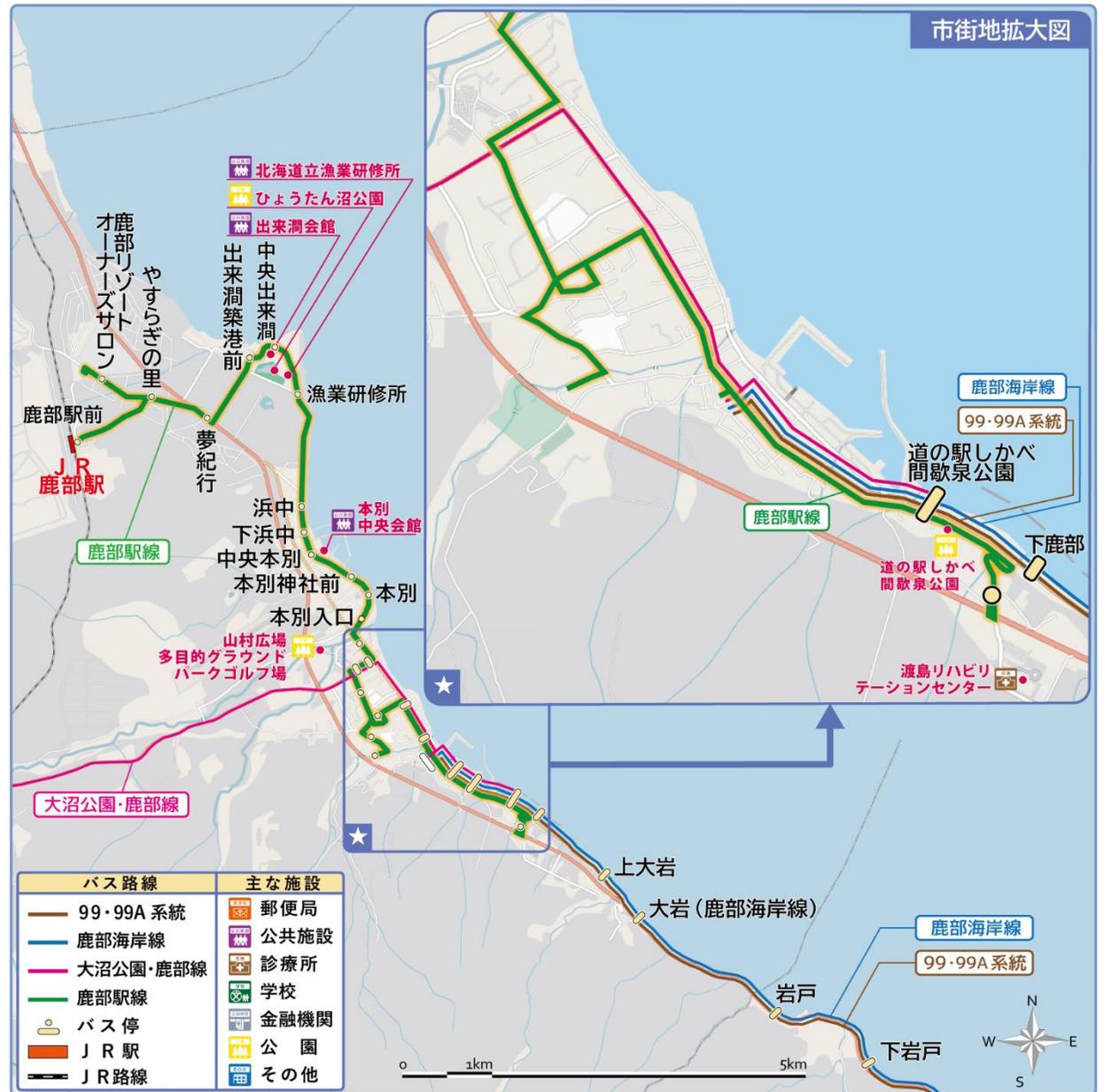
「プロセス」

- ・令和元年から町直営コミュニティバスの実証運行を実施
- ・地域公共交通利用者会議及び地域公共交通活性化協議会で協議をし、令和3年5月に路線バスを再編、バスマップを作成、全戸配布した。
- ・路線バス用小型ノンステップバス購入

「創意工夫」

- ・地域公共交通確保維持改善事業費補助金及び公有民営方式車両購入費国庫補助金の活用
- ・町直営コミュニティバスの実証運行及び地域公共交通利用者会議及び地域公共交通活性化協議会の意見、各種アンケートの結果を参考に路線バスを再編
- ・路線バスの再編について、通学や町民ニーズ(各施設への立ち寄り)に即した運行ルート、週3日交通空白時間帯であった日中の便を追加、コミュニティ化したルートを運行可能な小型バスの購入、運賃の再設定を実施。
- ・バス車内モニターへの町PR動画投影、新型コロナウイルス対応の光触媒による車内コーティング、車内への無料Wi-Fi搭載
- ・地域公共交通利用者会議や利用者、バス事業者の意見を参考に、ルートや時刻を変更
- ・子どもたちによるクリスマスの車内装飾の協力により、身近に感じてもらう取組みや、バス事業者による季節ごとの車内装飾を実施
- ・幼稚園児の乗車体験を実施

2) 運行系統



令和4年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

「プロセス」

- ・令和3年10月からデマンドバス実証運行を実施
- ・地域公共交通利用者会議及び地域公共交通活性化協議会で協議をし、令和4年5月から本格運行を実施した。
- ・デマンドバス用10人乗り車両購入

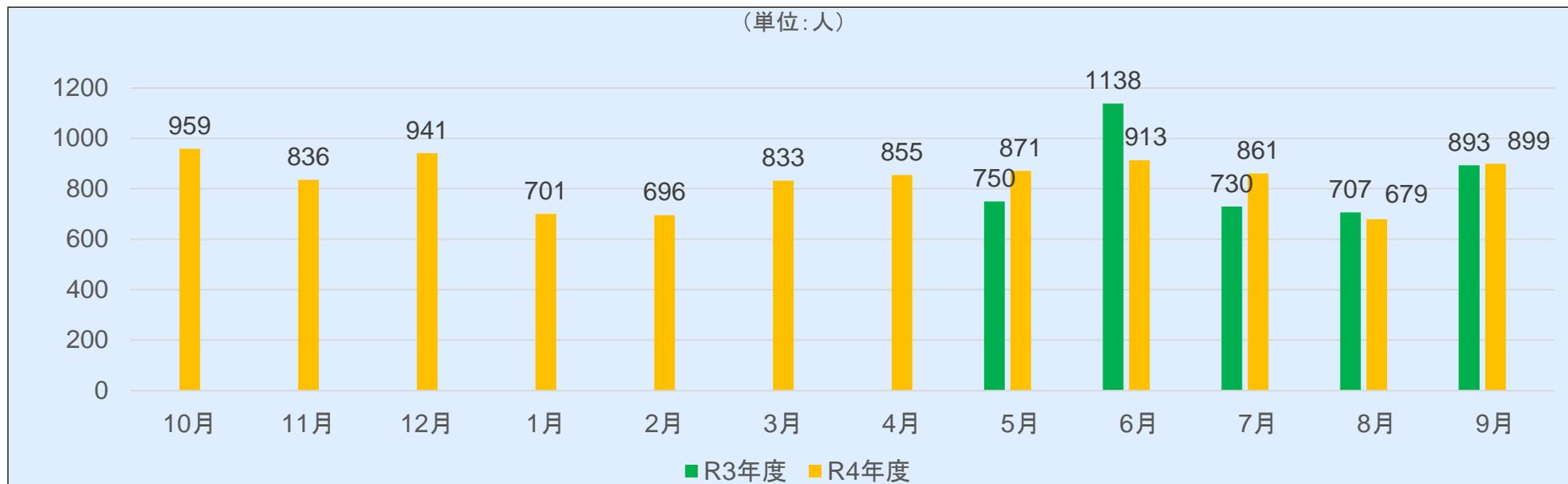
「創意工夫」

- ・地域公共交通確保維持改善事業費補助金の活用
- ・実証運行及び地域公共交通利用者会議及び地域公共交通活性化協議会の意見、各種アンケートの結果を参考に運行内容を決定
- ・路線バスの運行しない又は停留所から遠い交通空白地域の移動手段として、自宅から路線バス乗継ぎ場所まで運行
- ・デマンドバス車両には、中学校美術部がデザインしたイラストをラッピングした。
- ・地域公共交通利用者会議や利用者、バス事業者の意見を参考に、対象地域を変更
- ・デマンドバス運行事業者によるタクシー営業も開始した。

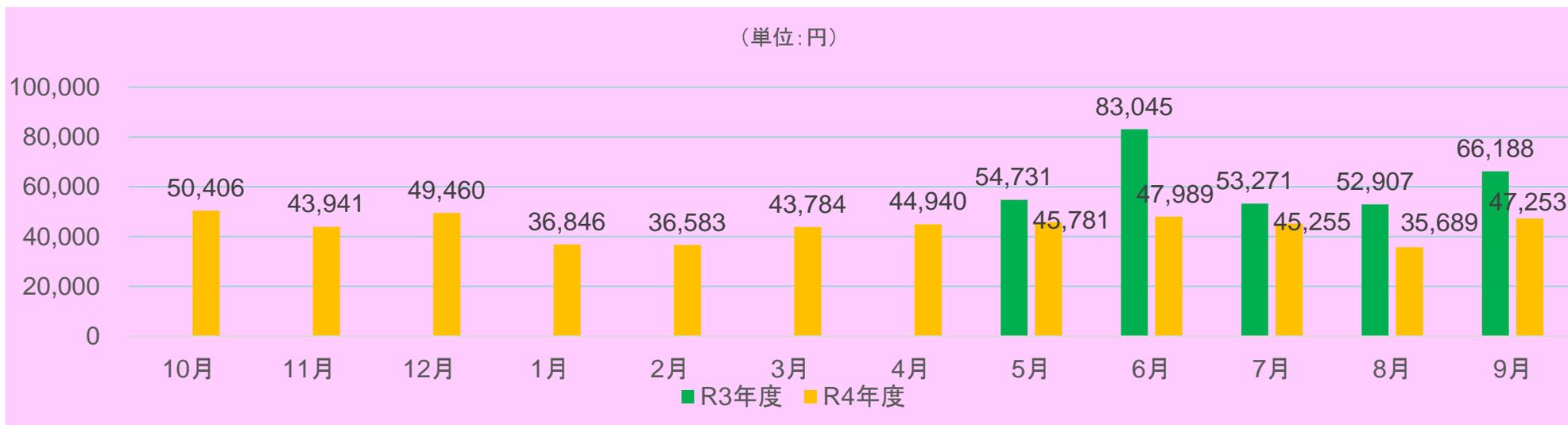
2) 運行系統



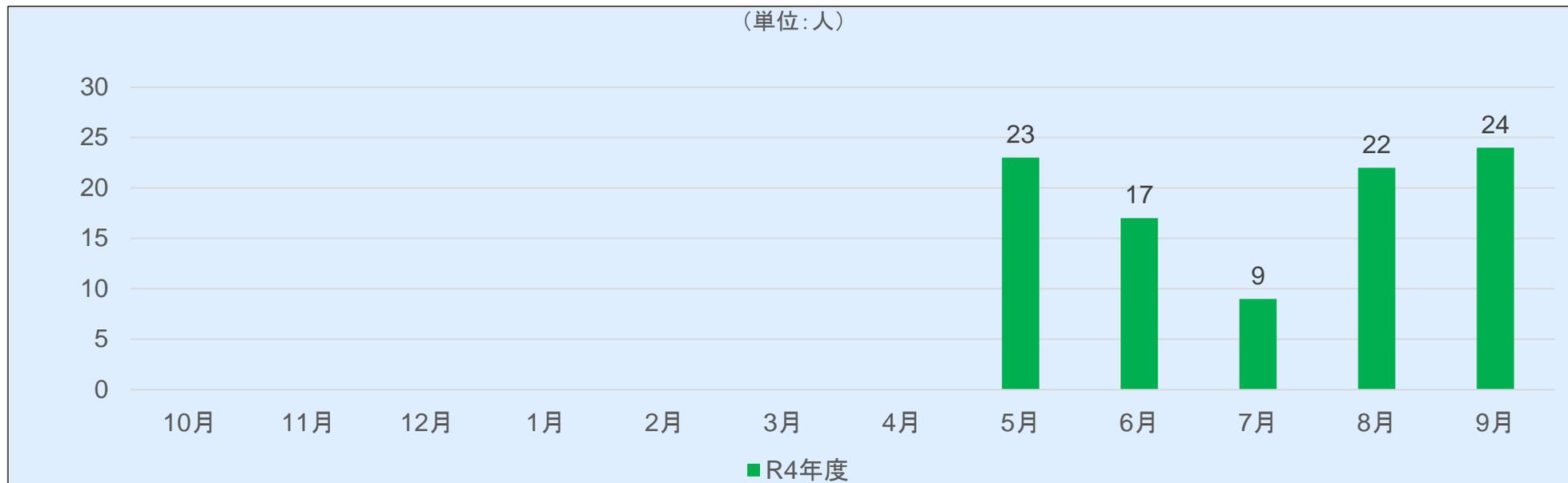
3) 利用実績 (路線バス)



4) 収入実績 (路線バス)



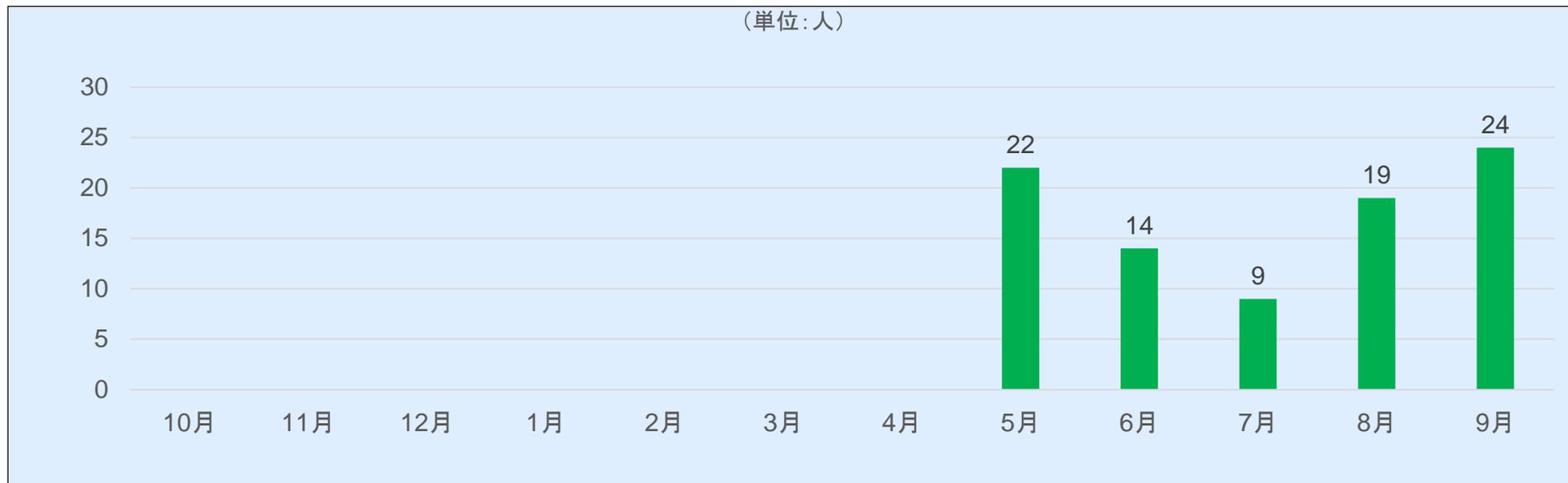
3) 利用実績 (デマンドバス全体)



4) 収入実績 (デマンドバス全体)



3) 利用実績 (デマンドバス補助対象路線)



4) 収入実績 (デマンドバス補助対象路線)



5) 事業実施の適切性

- ・地域公共交通利用者会議、利用者や運行事業者の意見を参考に路線バスの運行内容を随時変更している。
- ・健診での路線バス利用の案内や、新型コロナウイルス予防接種時におけるバス利用助成を担当部署で実施した。
- ・交通空白地の移動手段としてデマンドバスの運行を開始したが、バスへの接続であるため、乗換が発生することや、事前予約が必要となることから、利用者が少ない状況にもかかわらず、費用負担が大きいことから、運行方法の見直しについて指摘されている。
- ・高齢者に親しみを持っていただくため、9人乗りのデマンドバス車両を購入し、中学校美術がデザインしたイラストをラッピングした。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、バスの乗り方教室が未実施となった。幼稚園児の乗車体験を実施した。
- ・個別相談者や利用登録申請者に対し路線バス及びデマンドバスの利用例を作成し案内した。

6) 目標・効果達成状況

- ・路線バスについて、運賃設定を一律100円と見直したことに伴い、高校生の利用は増加したが、日中の便を利用する高齢者が減少したため、目標人数を達成できなかった。
- ・小型バス車両取得により、年間修繕費が半分程度に抑えられている。燃費に関しては、月平均1.3K/L程度改善されている。
- ・小型バスを活用したバスの乗り方教室については、新型コロナウイルスの感染症の影響により未実施となった。幼稚園児の乗車体験やクリスマスの装飾を小学生にってもらうことで親しんでもらった。
- ・公共交通利用者会議等で意見聴取し、利用者ニーズに即した運行計画の見直しを実施した。
- ・交通空白地の移動手段として運行を開始したデマンドバスについて、事前登録者は、9月末で133人となっているが、令和4年度の利用者は、全地域併せて1日1人と目標を達成できなかった。

7) 事業の今後の改善点

- ・公共交通利用者会議等で意見聴取し、利用者のニーズにあわせた時刻表の見直しを実施する。
- ・小学生を対象とした乗り方教室の実施や、路線バスを利用した移動例を周知し、利用者拡大を図る。
- ・路線バス及びデマンドバスの利用者が少ない便について、変更や減便を検討する。
- ・デマンドバスの利用説明会を実施する。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄